



南房総の風し



〔発行〕
南房総教育事務所 指導室
令和3年2月26日
第14号

「授業づくり」は児童生徒の姿から 学習指導要領が 小学校・中学校で全面実施となります!

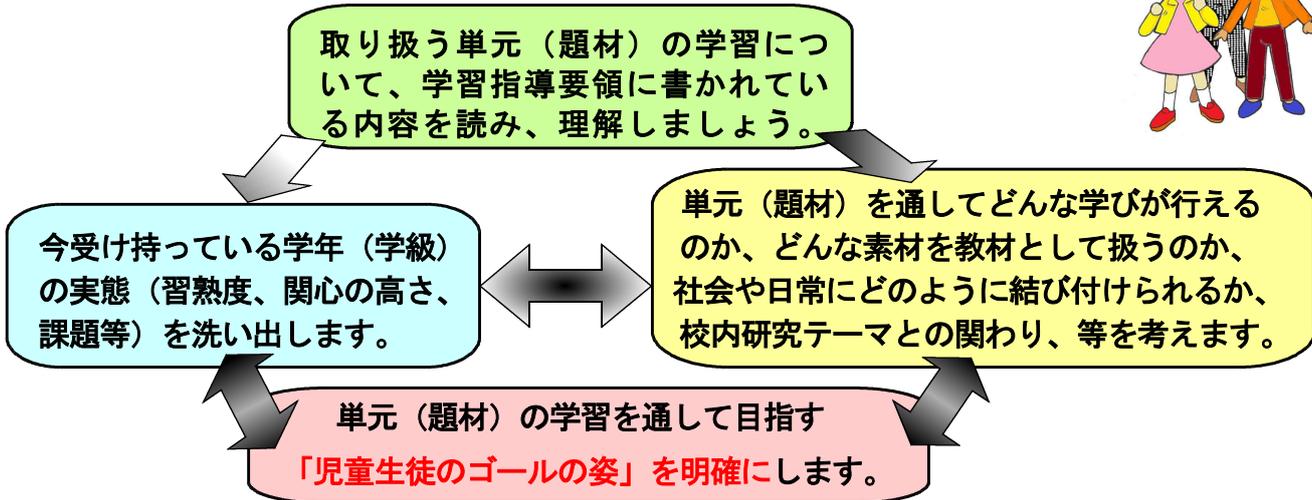
令和2年度もいよいよ、まとめの時期に入ってきました。

要請訪問に伺った各学校では、セルフチェックシートを活用した授業改善に前向きに取り組まれている様子が見られました。学習評価についても、数多くのご質問をいただいたり、理論研修の要請をいただいたりしています。

児童生徒が自ら学ぶ授業をつくるためには、学習評価を指導・助言につなげる「指導と評価の一体化」が重要となります。「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力を自ら身に付ける児童生徒を育成するための「授業づくり」について考えてみましょう。

<ポイント1>

「児童生徒のゴールの姿」を明確に



<ポイント2>

「ゴールの姿」から、単元（題材）の目標を設定

単元（題材）の学習を通して、〇〇に気付き、〇〇ができるようになり、～な考え方をするようになる等、児童生徒の成長した姿（＝「ゴールの姿」）を明確にし、目標（身に付けたい資質・能力）を、3つの柱で設定します。

単元（題材）の目標から「評価規準」を作成します。「評価の観点」は「資質・能力」と表記が異なります。

【資質・能力】

- 知識及び技能
- 思考力、判断力、表現力等
- 学びに向かう力、人間性等

【評価の観点】

- 知識・技能
- 思考・判断・表現
- 主体的に学習に取り組む態度
(感性・思いやり等⇒個人内評価)

<ポイント3>

「ゴールの姿」の実現に必要な、単元（題材）の全体計画（指導計画&評価計画）を作成

児童生徒に表れてほしい「ゴールの姿」にたどり着くために、どのような内容をどのような順序で学習すればよいかについて考え、全体計画(指導計画&評価計画)を立てます。児童生徒の立場に立って考え、学年や学級の実態から反応を予想して計画を作成しましょう。また、評価には大きく分けて2種類(●「学習改善につなげる評価」と○「評定に用いる評価」)があることを意識して、どの場面に設定するのかを考えましょう。

時	○目標・学習内容(学習課題)	評価箇所・評価方法		
		知識・技能	思考・判断・推理	主体的に学習に取り組む態度
1	○	●知①② (ノート分析)	●思① (活動観察、ノート分析)	●態① (活動観察、ノート分析)
2	○	●知② (ノート分析)	●思② (活動観察、ノート分析)	
3	○			
4	○			
5	○	●知③ (ノート分析)	●思③ (活動観察、ノート分析)	
6	○			
7	○			
8	○	●知④⑤ (ノート分析)	●思④ (活動観察、ノート分析)	●態④ (活動観察、ノート分析)
9	○			
10	○			
11	○	○知①②③④⑤ (ルーブリック)		

●「学習改善につなげる評価」→主に「努力を要する」児童生徒を確認し、その後の指導に生かすための機会とする評価

単元初期の学習指導においては、「努力を要する」と判断される状況になりそうな児童生徒を見だし、「おおむね満足できる状況{B}となるよう適切な指導を行うための評価を中心に行う。

○「評定に用いる評価」→学級全員の児童生徒の評価を、総括の資料にするために記録に残す機会とする評価

単元(授業)の中のどの場面(評価場面)で、どんな児童生徒の姿が見られれば、「おおむね満足できる」状況{B}と評価するのか。また、その評価資料をどんな方法(評価方法)で収集するのかを計画しておくことが重要。

<ポイント4>

「主体的・対話的で深い学び」の視点から手立てを工夫

【例】

- ・本時のねらいを明確にし、探求型の学習課題を設定する。
- ・思考ツールのプリントを活用して、各自が思考を整理する。
- ・グループ活動では、付箋を用いたKJ法やウェビングで思考を広げる。
- ・(道徳で)主人公の心の動きを実体験するために役割演技を取り入れる。

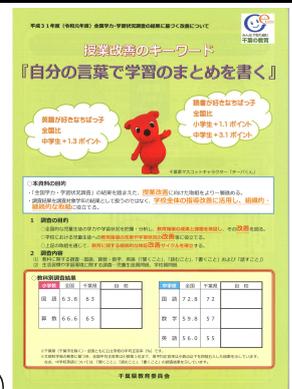


<ポイント5>

児童生徒が、「自分の言葉で学習のまとめを書く」

学習の振り返りの際に、児童生徒が「自分の言葉で学習のまとめを書く」ことによって学習活動を自ら振り返り、意味づけ、身に付いた資質・能力を自覚するようになり、基礎的・基本的な知識等の定着がはかれるようになります。また、自分の考えをより妥当なものとしたり、広めたりするようになるので、必要な情報を選択し、それを基に自分の考えを形成し、説明する能力が高まっていきます。

単元終末の振り返りとして書く「まとめ」は、自己評価や相互評価の材料ともなります。「ゴールの姿」にどれだけ近づくことができたか評価を行い、児童生徒の学習改善や授業者の授業改善につなげていきましょう。



ポイントを踏まえた授業づくりを繰り返し実践(=授業改善)し、児童生徒の「生きる力」を育てていきましょう。

